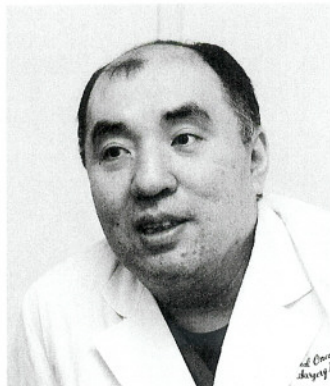


加地苗人

(かじ・みつひと)

1962年、留萌市生まれ。88年、北大医学部を卒業し第2外科に入局。市立旭川病院、手稲溪仁会病院、北海道大学病院などを経て2004年より札幌南三条病院呼吸器外科部長



札幌南三条病院

所在地 札幌市中央区南3西6

TEL 011-233-3711

病床数 99

主な執刀医 加地苗人(呼吸器外科部長)、加藤達哉(同医師)、石川慶大(同)

肺がん 標準手術の75%は胸腔鏡で

「肺がんなら札幌南三条病院」という評判がある程度知れわたったことが、手術数トップの理由ではないでしょうか。前身の札幌南一条病院時代から呼吸器専門病院として、多くの先輩医師たちが真摯な診療を行ってきた成果だと思います。

当院は呼吸器内科の化学療法(抗がん剤治療)では全国的にトップレベルですから、包括的な患者さんへの対応ができます。診断から治療方針を決定する経緯でも、外科と内科との連携が強く、偏らない治療ができています。

手術は、あまり進行していない患者さんには胸腔鏡や内視鏡手術を積極的に導入しています。内視鏡の使用により、肋骨を切ったり、筋肉を大きく切り離したりすることを避けられ、結果的に患者さんの心身への負担と苦痛を少なくすることができます。

最近では、原発性肺がんの標準手術である肺葉切除およびリンパ節郭清の75%程度が胸腔鏡手術で行われています。内視鏡手術の生存率は、従来の開胸手術と同等か、やや上回る成績が今のところ得られています。

ただ、内視鏡にこだわらずに開胸手術の利点も併せて考慮。病状に応じて術式を選択していきます。

また、非常に早期の肺がんに対しては肺葉切除を行わず、腫瘍部分のみを切除する縮小手術も積



極的に行っています。これはまだ長期間の成績は出ていませんが、今のところ再発した症例もなく、今後さらに増えていく手術だと思われます。

最近では、進行した肺がんに対して抗がん剤治療をし

て、従来は手術できなかった患者さんの手術を可能にしたり、切除する肺の量を少なくしたりする症例も徐々に増えています。

今後、手術を望まれる人は第一に、禁煙です。術後の合併症として最も恐ろしい肺炎発症のリスクを下げる意味でも欠かせません。肺の手術を受けられる患者さんは、手術後残った肺と大切に付き合わなければなりません。禁煙は絶対に守ってください。

自分の病気を正しく理解することも大切です。手術前には病名や病状、治療法の種類、効果やリスクなど、時間をかけて説明します。しかし、最終的には患者さん本人に治療方法を決めていただくことになります。方針を医師任せにすることなく、分からない部分は質問していただき、きちんと理解してから、手術に臨んでください。